

<要旨>

南海トラフ巨大地震とは東海から九州まで東西およそ700キロに及ぶ南海トラフに沿って発生する巨大地震のことで、この地域ではこれまでおおむね100年から150年の周期で、マグニチュード8クラスの巨大地震が発生している。文部科学省地震調査委員会は今後30年以内にM8から9クラスの地震が発生する確率を70～80%と発表している。南海トラフ地震が発生すると、震源が太平洋側の都市に近いことから、巨大地震発生後、極めて短い時間で巨大津波が来襲する。しかし、津波対策は東日本の太平洋側以外はあまり進んでいない現状がある。

本研究では、近年の大災害を参考にしながら、効果的な南海トラフ巨大地震の防災対策の提言を行いたいと考えている。